

第67回 全国高等学校PTA連合会大会静岡大会参加報告書

○日 程 平成29年8月24日（木）9：00～16：30

○会 場 静岡県小笠山総合運動公園エコパ エコパアリーナ

○参加者 近藤会長、名嶋副会長、大山校長

○内容等 概要については、大会要項のほか次のとおり。



メイン会場の静岡県小笠山総合運動公園エコパ（正面はエコパスタジアム）



全体会会場のエコパアリーナ（本大会参加者数は約9,500名）

第67回 全国高等学校PTA連合会大会

静岡大会

大会要項

「有徳の人」づくり

～未来のために行動する「一人」を育てよう～

平成29年 **8月24日(木)・25日(金)**

主 催／一般社団法人 全国高等学校PTA連合会

主 管／静岡県公立高等学校PTA連合会



基調講演

全体会

基調講演



「戦国武将に学ぶ子育てと人づくり」

静岡大学名誉教授 ^{おわだ てつお} 小和田 哲男氏

講演内容

「歴史は鏡である」といういい方をします。そこに過去を映し出し、未来を照らすという意味です。歴史は、ただ過去のできごとではなく、未来につながっています。先人たちの生きざまから、未来を生きるヒントをつかむことが大事だと思います。

戦国時代、何百人、数え方によってはもっと多くの武将たちが登場しています。戦国時代のキーワードの一つ、弱肉強食の言葉通り、負け組は歴史の表舞台から姿を消していきました。では、勝ち組はどうして勝ち残ったのでしょうか。勝ち組の武将たちに共通するのは、子育てと人づくりに成功しているという点です。

当時、武刃咄というものが盛んに行われていました。自分の経験談を子どもや孫たちにしゃべっているのですが、中には、子どもや孫たちにわかるように文章として残した武将もいます。褒め方、叱り方一つをとっても、コツがあります。中には、「一度、大敗北を喫した者でなければ名将にはなれない」といった武将もいます。こうした武将たちの残した言葉から、子育てと人づくりのヒントを紹介したいと思います。

プロフィール

1944年 静岡県静岡市生まれ
1972年 早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了
(文学博士)
1973年 静岡大学講師
1976年 同助教授
1987年 同教授
2000年 静岡大学教育学部長
2005年 静岡大学附属図書館長
2009年 静岡大学定年退職、静岡大学名誉教授
2013年 公益財団法人日本城郭協会理事長(現在に至る)
ほかに、NHK大河ドラマの時代考証を担当
(1996年「秀吉」、2006年「功名が辻」、2009年「天地人」、
2011年「江～姫たちの戦国～」、2014年「軍師官兵衛」、
2017年「おんな城主 直虎」)。

主な著書

『後北条氏研究』吉川弘文館 1983年
『呪術と占星の戦国史』新潮社 1998年
『小和田哲男著作集』(全7巻)清文堂出版
2000～2002年
『歴史探索入門』角川書店 2003年
『今川義元』ミネルヴァ書房 2004年
『近江浅井氏の研究』清文堂出版 2005年
『黒田如水』ミネルヴァ書房 2012年
『東海の戦国史』ミネルヴァ書房 2016年
『井伊直虎』洋泉社 2016年

【基調講演】 10 : 50 ~ 12 : 00

1 演題 「戦国武将に学ぶ子育てと人づくり」(大会要項P34)

2 講師 静岡大学名誉教授 小和田 哲男 氏

3 講演の所感

現在放送されているNHK大河ドラマの時代考証もされている氏が、歴史は単に過去の出来事ではなく、未来につながっているという観点から、現在のよ様に学校のなかった時代に、先人がどのように子育て、人づくりを行っていたのかについて語られた。

○戦国時代は、江戸時代の寺子屋とは違った意味で、禅寺が武士の子息の学校の役割を果たしており、学問や和歌などの教養だけでなく、政治や兵法などについても教わっており、禅僧は軍師としての側面もあった。今川義元、上杉謙信、伊達正宗などにも、それぞれ優れた軍師(禅僧)がいた。

○子どもへの教育には、遺言が重要な役割を担っており、現在の財産分与等ではなく、例えば名将の条件として、大敗を経験していることの重要性などが伝えられた。また、武辺咄という自分の成功談や経験を子どもや孫たちに語り、内容を文章に残すなどにより、子育て、人づくりに役立てられた。

○北条家では、部下の良いところを評価して、適材適所の人材登用が大切だと教えられており、「人間に屑はいない」として、子どもや家臣の才能を見出し、伸ばし、生かすことが実践されていた。

○織田信長も能力本位の人材登用を行っており、戦場における武力の面では脆弱であった秀吉の話術による謀報力について高く評価し活用した。具体的には、難攻不落の稲葉城(岐阜城)を相手方の寝返りを唆すことに秀吉が成功し、そのタイミングで信長は戦を仕掛けて勝利した。

○徳川家康も「宝の中の宝は家臣」とし、また、家臣は自分の好きな人ばかりではいけないと言っている。(お友達ばかりで固めてはダメ)なお、譜代や親藩などを重用したようにいわれるが、「忠臣の子は忠臣」として敵の子息でも登用し、その孫を最終的に老中に任ずるなどの抜擢も行っている。

○現在のよ様な教育制度は勿論無かったが、学校教育だけでなく生涯教育に通じる人づくりの工夫が、最終的に戦国時代を勝ち抜く基礎となった。

第一部

基調講演



基調講演講師

株式会社KDDI総合研究所
教育・医療ICTグループ 研究主査

さいとう ながゆき
齋藤 長行氏

プロフィール

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科後期博士課程修了。博士(メディアデザイン学)。お茶の水女子大学非常勤講師、経済協力開発機構(OECD)科学技術産業局(STI)ポリシーアナリスト、国立国会図書館非常勤研究員等を経て、現在、KDDI研究所研究主査。総務省の「青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有識者検討会」では委員に就任し、「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標(ILAS)」の策定に加わる。2015年5月アジア太平洋経済協力(APEC)第2回高級実務者会合(SMO 2)第52回電気通信・情報作業部会(APEC TEL 52)、OECD科学技術イノベーション局(STI)デジタル経済政策委員会(CDEP)デジタル経済計測分析作業部会(WPMADE)等において、国際的なインターネット上の青少年保護に関する指標策定に向けた取り組みを行っている。

主要著訳書:『サイバーリスクから子どもを守る:エビデンスに基づく青少年保護政策』(著訳、経済協力開発機構(OECD)編著、明石書店、2016年)

【研究発表】 14:00～16:30

1 テーマ 「ネットトラブルの予防と対策」(大会要項P40)

2 基調講演講師 株式会社KDDI 総合研究所 齊藤 長行 氏

3 講演の所感

現代の社会生活において、スマートフォンは必要不可欠であり、それは青少年についても同様である。

しかし、スマートフォンなどによるインターネット環境が身近なものになったことは、様々な危険も身近になってしまい、日本だけでなく世界的に対応が求められる喫緊の問題である。

こうした危険に対するためのインターネットリテラシーは、青少年に比して大人の方が高く、大人によるケアをきちんと行うことで、青少年のインターネットリテラシー(インターネットの使用やインターネットによるコミュニケーション、プライバシー保護等の能力)を向上させ、ネットトラブルの予防と対策に取り組んでいくことが大切である。

